

福岡県指定無形民俗文化財 小倉祇園太鼓

山車競演会で ロボットが 太鼓打ち

— 400年近い祭りで史上初 —

小倉祇園太鼓って？

そもそも祇園祭は平安時代、夏になると悪疫が流行したり稲などに害虫がつき、これを悪霊の仕業と考え、この悪霊を慰め退散させるために神に祈ったことを起源とする祭りです。その祇園祭の中で小倉祇園太鼓は、京都の神幸祇園、博多の追山祇園と共に全国三大祇園と称されています。

小倉祇園太鼓は、全国的にも珍しい太鼓の両面打ちを特長としています。しかも歩行打ちで、何人で叩いても一つの音を醸し出さねばなりません。また、太鼓は皮の張り方で一面は甲高い音を出し、他面は少し鈍い濁音がでます。甲高い方を「カン」といい、濁音の方を「ドロ」といい、カンとドロとは全く打ち方が違います。それぞれに原則的な打法やリズムがありますが、それを基本的に打ち手が工夫を凝らしているのが小倉祇園太鼓のおもしろさと言われています。

(小倉祇園太鼓公式HPより抜粋:
<http://www.kokuragiondaiko.jp/>)

なぜロボットが参加したの？

小倉祇園太鼓のイベントの一つとして、山車競演大会が行われます。この山車競演大会が今年60回目の節目を迎えることから、イベントの目玉の一つとして小倉祇園太鼓保存振興会からロボットの参加要請を受けたのがきっかけです。

とは言え、溶接・搬送・塗装は得意な当社ロボットも、太鼓打ちとなると話は別です。

ましてや、山車は移動する必要があり、生産現場への固定を前提に設計されたロボットには大変です。さらに、小倉祇園は神事の一環として起源したお祭りで、伝統と格式に培われた作法や心得といった品格を求められます。

ロボット山車が完成するまで

とにかく我々には、わからないことだらけで、この話をご提案くださった小倉祇園太鼓保存振興会の方に助けを求めることにしました。

小倉祇園太鼓は、太鼓の両面打ちを行うことから、太鼓左右にカン担当(メロディ)とドロ担当(ベースリズム)が必要です。さらにジャンガラ(シンバルを小さくしたような金属の円盤)を打ち鳴らす太鼓のリード役が必要です。

そこで複雑な動作を要求されるカンとジャンガラには、人の上半身に似た双腕ロボット「MOTOMAN-DIA10」を各1台づつ、単調なドロには小形垂直多関節形ロボット「MOTOMAN-HP3」を2台(両腕相当)使用しました。

これら4台のロボットを山車上に設置、山車胴体内にコントローラを収納し、このロボット山車を人が引っ張ることで移動させます。またロボットには電源が必要ですので、発電機を別の台車に載せてロボット山車に

連結させました。ロボット山車と発電機台車の重量は、あわせて3t超です。

山車としての形が整い、ここからが最難関の、音を奏でるティーチング作業です。人間が太鼓を打つスピードは早く、再現が大変です。さらに、複数台のロボットが打つ音をあわせるとなると至難の技です。もともと正確に動作するロボットですが、手首のスナップ効果を出すためハンド部分に仕込んだバネや高速動作の影響でタイミングを取り難くなっています。また人間の耳は音に対する感覚が鋭く、ほんの些細なタイミングのズレが違和感となって不快に感じられます。さらに、太鼓を打つだけでなく体を使って優雅なバチさばきを表現しないとダメです。実際、ティーチング担当者は、毎年参加している山車の練習に邪魔されて手ほどきを受け、大変な苦勞でティーチングを行ったのです。

さあ、本番！

本番当日は前日の雨も上がり、うだるような暑さも無い曇り空で、人にもロボットにもありがたい天候となりました。小倉城内でのロボット山車の準備が整う頃には、周りを多くの見物客が取り巻き写真を撮ったり、準備関係者へ質問したりと大変な人気振ります。事前の告知や報道で皆さん知っていただいていたようですが、実物を見るのは初めてで、

その出来栄に感心していただいたようです。こうして周囲の期待が盛り上がるにつれ、ロボット山車準備関係者の緊張感が高まります。やはり山車は、移動しながら太鼓叩いてこそその山車です。ここまできたら「無事に動ききってくれ」と祈るしかありません。

本番の山車競演大会は、小倉城大手門前広場に特設された直線70m程の通路の端から各参加チームが列をつくり、山車を引きながら審査員の前で太鼓打ちを披露します。審査された得点はすぐに発表され、その得点で優勝を争います。ロボット山車は、34年ぶりに披露される県有形民俗文化財「山鉾山車」との新旧競演となり、本番に先立ち皆様に披露されました。約5分の道のりを無事動ききってくれたときは、「まっとした」と言うのが正直な気持ちです。その後、本番終了までロボット山車は会場内に展示され、見物された多くの方々に賞賛のお言葉をいただきました。

最後に

今回のお祭り参加は、街のにぎわい作りへの貢献や、地元である北九州の方々当社への親しみをよりいっそう深めていただく絶好の機会でした。また、ロボット山車準備段階からの各種メディア取材により、報道を通して当社を広くPR出来たこともなによりです。

最後に、小倉祇園太鼓保存振興会の方々を始めご協力くださった皆様方に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

本記事に関するお問い合わせ先: ロボット事業部 事業企画部
TEL: (093) 645-7703
FAX: (093) 631-8140

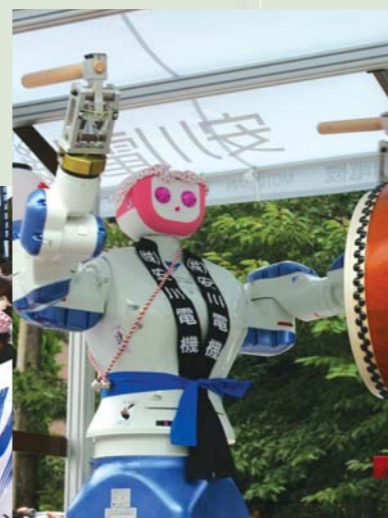


指が腫れるまで太鼓打ちを練習するティーチング担当者たち。

いよいよ本番。先頭は利島社長。



掛け声も元気に山車を引く多くの社員たちが続く。



カン担当のロボットによるバチさばき。



太鼓打ちを披露する、華麗なロボットの山車。



ジャンガラ担当のロボットによる振り鉦。

e-mecha Ironics.com リニューアルオープン

製品・技術情報をより使いやすく! よりわかりやすく!

「e-メカサイト」

安川電機の製品・技術情報サイト「e-メカサイト」は、製品に関する情報やデータをいつでも閲覧・ダウンロードできることから、たくさんのお客様にご愛顧いただいています。

このたび、お客様からの貴重なご意見を参考に、「製品・技術情報をより使いやすく! よりわかりやすく!」をモットーにサイトリニューアルを実施し、7月14日より一般公開しました。

今後も、「e-メカサイト」はより多くのお客様に便利な各種サービスをご利用いただき、満足されることを目指して、内容を充実してまいります。

本記事に関するお問い合わせ先:
モーションコントロール事業部 ソリューション&サポートセンタ営業推進課
TEL: (04) 2962-1042 FAX: (04) 2962-5913

http://www.e-me chatronics.com/

製品を切り口に情報を集約した「サイト構成」

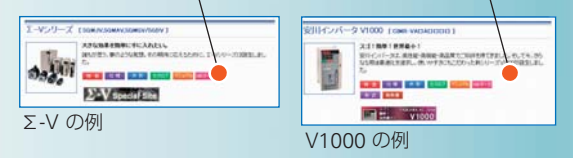
1 情報構成の統一

製品を中心としたサイト構成になり、目的の製品を簡単に見つけることができます。



2 デザイン・配色の統一

各ページのデザイン・配色を統一したので、どこに何があるか分かりやすく、直感的に操作することができます。



お客様の「もっと」にお応えする「おすすめコンテンツ」

お客様の「もっと知りたい」「もっと見たい」「もっと学びたい」など、さまざまなご要望に応じて、e-メカサイトはスペシャルコンテンツを提供しています。

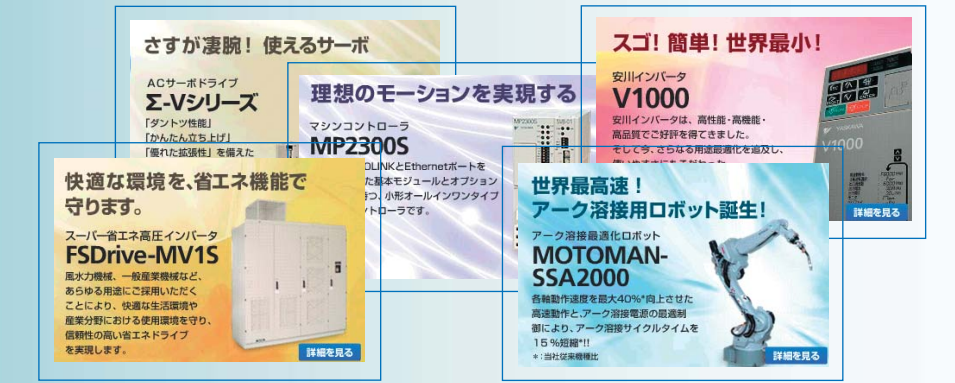


- 今後の計画
e-メカサイトでは、
 - ・英文サイトのレベルアップ
 - ・コミュニティコンテンツの充実
 - ・外形図情報の充実
- を計画しています。

トップページに集約した「PR機能」

1 イチオシ製品の紹介

お客様が知りたい最新の情報をトップページと各製品ページに掲載しているため、旬の情報をいち早くご覧いただけるようになりました。



2 新製品・イベントの紹介

新着情報を確認することなく最新の製品、イベント情報をご覧いただけるようにトップページに掲載しました。

役立つサービスメニューを集約した「お客様サポート」

「カタログはどこにあるの?」「CADデータをダウンロードしたいけど、どこに載っているの?」そんなときは利用頻度の高いコンテンツを集約した「お客様サポート」をご利用ください。

